みうらトーク＆トーク　2009年度第2回

日　時　平成21年8月5日（水）
13時30分から14時30分
参加者　三浦臨海高校生徒会8名、市側6名
テーマ　通学路について　等
団　体　三浦臨海高校
団体の紹介　三浦市にある唯一の県立高校。恵まれた自然と自由な環境の中で自主的に学び、国際的な視野と豊かな心をもって自らを実現する人の育成を掲げている。

生徒から配られた次第と「生徒からの質問まとめ」

トーク＆トーク

1、通学路（宮田～三崎口）

2、医療

3、隣の空き地

4、生徒からの質問

5、観光客のゴミ分別

6、海の家

生徒からの質問まとめ

三浦市の中で市長さんが誇りにおもってる事は何ですか？

三崎の花火がなくなったそうですが、
ほかの花火大会が減ることもありうるのですか？

アリーナの中にプールはできなんですか？

部活の活動の場を広げたい（校外活動）

三崎、三浦にもお店をつくってほしい。

これからの三浦をどういう風に考えていますか？

資料説明および意見交換

職員　今回の通学路については、歩道が狭いとか、木があって通りにくいとか、そんなところかなと思うんですが、今日は市長以下、市の担当者しか来ていないので、本来は歩道をどうするというのは県の人が来て答えればいいんですが、今日は県から聞いている情報とか、市の思いなどを含めて知っている情報をお話します。駅から見ると坂を下りて左側に4～5階建の建物があって、そこから農協や動物

病院のところに信号があります。その先にガソリンスタンドがあって、潮風アリーナがあります。このあたりの歩道は狭いですね。この部分を広げていかないと、改善しないです。この部分を、平成 27 年度までに拡げます。そうすると歩道も一緒に拡がります。おそらくここが一番狭いのでバスの停留所もへこませて、バスベイと呼ぶんですが、それを一緒に作ったりして、警察と県の事務所と地元の方の協力を得て、市も県のバックアップしながら歩道を何とか拡げていきたいなと。ただ役所がやる仕事ですから、目標はありますが、地元の方の協力がないとできません。

生徒　私たちが普段使っている通学路なんですけど、宮田のバス停から三崎口駅までの坂道なんですが、街灯が歩道のほうに無いという意見があって、車道には数本あるのはわかるんですけど、夜には車が通れば少しは足元も明るくなるんですけど、車が通らなかったりすると道の幅が狭いのもありますが、ちょっと暗いなぁというのがあります。本校は女子と男子だと女子の方が多いんですね。それで、部活などで遅れて夜帰るときにちょっと不安だという意見が出ているんですけど、これについて三浦市の方はどうお考えかお聞きしたいです。

職員　この国道を管理しているのは市役所ではないので、今日聞いた話を県の土木事務所に伝えます。今のお話は工事が始まれば一緒に解消できるんだと思うので、市も一緒に計画を作っていきたいので、歩道が狭いという話なので、6 年以内を目標に照明灯をつけるなり、歩道も拡げるなり、セブンイレブンの前みたいに歩道が広くて木が植わっている、あのイメージをずっと駅まで繋げていきたいなと思っています。そうすると、駅から歩道は広くなっているんで、高校までは綺麗な道を歩いていけるようにしたいなと思っています。

生徒　ありがとうございました。次に医療についてですが。

市長　いただいたテーマについて市の職員が説明しますから、まず説明をさせてもらってからにしましょうか。

職員　では、隣の空き地についても簡単に説明します。これまでの経緯や現在どうなのか、今後どうなっていくのか、という 3 本立てで説明します。ここは戦争の前、昔から海だったのを土を入れて埋め立てしてから、約 40 年位色んな計画がありました。昔、野球場があったりして、ホテル計画とか、色んな計画が上がっていました。その後、地主さんが「こういう計画をやりたい」ということになり、市としても大きな開発計画なので、応援しながら進めていました。ところが去年、

皆さんが新聞で見たように、この不況の中で、この開発計画をしている会社の業績が落ちてしまい、事業が進められなくなってしまったので、今年の 3 月に工事が中断してしまいました。現在の状況ですが、中断しています。今年の 9 月までに工事を再開するか中断期間を延伸するか廃止するかという選択を、このプロパストという会社が迫られていまして、その中で市としても状況の報告書を毎月もらって、状況を把握しています。では今後どうなるのかというと、先ほど言ったように市が工事をやっているわけではないので、なかなか難しい言い方なんですけど、そのプロパストという会社は「完了させたい」と言っています。これはしっかり言っています。ただ、あくまで民間の事業者なので、市としては、常に、細かいものも含めて情報を把握するように努めています。要は、工事に着手にしたんですが、今は中断をしていて、今後は市としても何とも見えないんですが、やっている会社は「何とかしたい」と言っていますという状況です。

職員　では、市立病院の方から説明いたします。私どもに与えられたテーマとして「三浦市の医師不足」ということなんですが、三浦市というより多分、市立病院の医師不足についてご心配なさっているんじゃないかと思うんですが、まず三浦市全体のお話をさせていただきますと、三浦市には社団法人三浦市医師会というのがございます。その中に病院が 2 つ、それから診療所が 22 あります。ちなみに診療所と病院の違いというのは、19 床以下が診療所で、20 床以上になりますと病院というように呼ばれています。その中で市立病院の方は診療科が現在 11 科、内科・神経内科・外科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科・小児科・産婦人科・リハビリテーション科・麻酔科・脳神経外科という 11 科です。それで、お渡しした資料に表が出ておりますが、これ市立病院の医師の数ですけど、こう推移をしております。これは常勤の数でございまして、内科や耳鼻科などは非常勤の先生に外来を見ていただいていて、何とかやっているという状況です。いずれにしても常勤の方が入らないとなかなか診療の厚さまたは診療の収入も上がらないので、常勤の医師を探して全国を行脚しています。この表のように 17 年度をピークに、21 人おりました。ここから 9 人減りまして 12 人で現在診療しております。今は 12 人になっておりますが、実は去年の 4 月には内科が 0 になって、去年の 6 月には整形外科が 0 になったりして、一時危機的な状況がありましたが、事務長を中心にして情報を発信したり収集することによって何とか今 12 人まで戻しております。今も何人かの先生と交渉しておりますので、少なくとも今年度、早ければ来年の 4 月にはまだ数名増える予定でありますので、それに向けて努力しているところであります。

で、なぜ医者が減ってしまったのかということなんですが、皆さん聞いた方もいるかもしれませんが、研修医という制度がございます。昔はインターンと呼んで

いたんですが、実はその研修は以前は任意だったんです。これが平成 16 年の医療改革の中で義務付けられました。義務付けられたことと同時に、今までは通常は医学部を卒業するとどこかの大学の医局というところに入りました。だから例えば横浜市大の医学部を出たとしても入る医局は東大だったり、九州大学だったりバラバラなんですね。医局に入りますとそこでいろいろと腕を磨くわけです。その間若い人たちがたくさん来ますので、大学にいる中堅の先生は「うちの関連病院に行ってこい」というようなことで、その中の一つに三浦市立病院も横浜市大から若い先生たちがいっぱいおりましたので、その中堅の先生が市立病院に来て皆さんを診療させていただいたんですね。それが、若い人たちが義務付けられたと同時に自由化というか、教授が采配するのではなくて、自分がどこの病院に行くか決められるんですね。そうしますとやはり若い人ですから、自分の理想で、症例をいっぱい見たい、自分が将来やりたい医療の中でそれが実現できるような病院に行きたいと色んな希望を持つんですね。そうすると、今一番人気があるのは都内の大学病院の付属病院です。逆に人気が無いのは私どものような地方の病院。地方の病院は研修制度としては、市立病院は研修制度がありませんけど、なかなか来ていただけない。そうなりますと若い医者がいませんので、それまで出していた中堅の先生を大学に戻さないと、逆に大学の診療ができなくなっちゃったんですね。それで一人抜き、二人抜きと大学に戻ってこいと引き上げる。その中で一番白羽の矢に立つのが三浦市立病院から帰ってきなさいと、悪いけど行かせられませんよと。これが全国的に展開されているんですね。ご存知のように今年は 8,000 人近い医学部の学生が生まれるというニュースがありましたけど、お医者さんの数は増えております。ではなぜ医師不足になるかというと、そういうカラクリがあるんですね。それと同時に、今医学部に行きますと半分女性です。女性のお医者さんが増えておりますから、やはり女性ですと結婚したり出産を経ていきますので、どうしても離職する期間があったりして、定着率が悪いっていうことも一つあるんですけれど。そういうようなことで地方の病院の、特に公立病院では医師不足が生じているわけなんです。

三浦市立病院の状況としましては、過去には横浜市立大学から若い人の代わりがいますので中堅が来てくれていたんですけど、その中堅たちが引き揚げてしまった。今後どうなっていくかと考えたときに、研修制度ががらっと変わることもございませんので、これからは自分たちで見つけなくちゃいけないなと。今までは教授にお願いしますと言えば教授が自動的に毎年 4 月に「今年●人」「今年は○人」と送ってくれたんですね。でもそういうことは全然期待できないので、俗に一本釣りと申すんですけど、先生に来て下さい、お願いしますとスカウトしたり、仲介してくれる会社があったり、インターネットを見て応募してくる先生と交渉して徐々に増えていきまして、今 4 人一本釣りで当たりまして、そのような形で

先生を増やして、横浜市大の医局に依存することなく、三浦市立病院の医局みたいなものを作っていけば、自分の医局ですから行くところがないですから、行く必要もありませんから、ずっと三浦で密着して診療してくれるということを狙っております。その中で平成 21 年度は 12 名の医師でやっておりますけど、20 年度には、4 名の先生を採用することができましたので、さらに 21 年度には整形の医師を数名、内科の医師も数名、少なくとも来年度に向けて来てくれるところまできておりますので、少なくとも減ることはないんじゃないかと思っております。

今後の三浦市立病院なんですけど、いわゆる公立病院として非常に経営も厳しい中、事務長は以前銀行員で、そのあとに民間の病院、それから公立病院の中枢部の計画部門を経て、うちに公募で来てくれたんですけど、切り口も民間の方法を使いますし、我々が今までやりたいと思っていてなかなかできなかったことを「やっちゃおう」とできる方なので、色んな仕掛けをしていきたいなと思っております。今後は三浦ならではの地域医療を作っていこうということで、頑張っております。その中で各クリニックさんと連携を深めておりまして、三浦市民の方々の検査データであるとか、CT、MRI の画像も共有して診療に使えればいいなと計画も出しております。これは「三浦アンチエイジングシステム」って呼んでます。それから、ドクターヘリのヘリポート、あれがあるんですが、東海大の医学部まで 15 分、市大の医学部まで 10 分で行きます。これを車で行ったらすごい時間がかかるんですけど、市立病院では解決できない、治すことのできない病気であっても、こういうような方法論をもって早く治す、または一人でも多くの命を助けるという立場で日夜頑張っております。とにかく今後も医師を見つけて、良質な医療を提供するよう頑張っていきますので、今後ともご協力をいただければと思っております。

市長　いただいたテーマで、説明をこちらで用意させていただきましたから、これからディスカッションをしたいと思いますけど、皆さんの方でいろいろ意見をまとめてあるようなので、それを言ってもらいましょうか。

生徒　通学路についてお聞きします。

市長　通学路の件というのは、宮田のバス停から三崎口まで行く間に歩道がちょっと暗いので、女の子が危ないという話ですね。で、それを何とかした方がいいよということですね。先ほど担当から説明してましたけど、この 134 号線というのは国道で、国道、市道、県道とあるんだけど、国道といっても 3 桁の国道あるでしょう。134 号とか。そういうのはだいたい県が管理するんだけど、国道は国道だか

ら国の予算でやるんですね。で、県の横須賀土木事務所というところが横須賀市と三浦市と逗子市、葉山町、その３市１町を所管しているんです。で、県道、県の道路と国道の一部を管理して、予算をかけて直したりするんですね。舗装を直したりとか。通学路というのはやっぱり重要なところだから、暗いという話があるので、「考えて下さい」ということを三浦市からも話しますから。
それで、三崎口から引橋までの道路あるでしょう。そこ夜真っ暗になるの知ってますか？街灯が無いんです。年中照らすと農作物が育っちゃっていけないというので、農道の近くというのは街灯が少ないんですよ。それはわざとそうしてるんですね。宮田から三崎口というとあの七曲りのところにちょっと畑があるくらいだから、たぶんその考えはないと思うんだけど、一応確認をして、臨海高校の先生じゃなくて生徒さんからそういう話があったということをちゃんとお伝えしますから。

生徒　隣の空き地、プロパストのことなんですが、一昨年はまだ工事が始まっていなかったので文化祭の時にノボリを飾ったんですね。フェンスのところに。去年は工事が始まっていて、「立てないでくれ」と言われて、立てられませんでした。今年はノボリをやりたいんですけど、できますか。

市長　勝手にはできないよね。勝手にはできないけど、道の向こう側ですね？（教室の窓から指を指して。）

生徒　川のフェンスのところなんですけど。

市長　川のフェンスは市のフェンスですよ。

生徒　白い囲いみたいなのがあって、それがあって立てられず、去年は学校の敷地内の校舎の中に飾るようになっちゃったんですけど。

市長　こっち側のね、あの程度だったら大丈夫だよ。あのフェンスは違うかもしれないな。どっちにしても、市役所の計画整備課に担当がいますから、そこと相談して下さい。もしプロパストの土地だとプロパストの許可をもらわないといけないから。市のところだったら、立てても構いませんから。それは先生に言って、市役所と相談をしてもらえばできますよ。潮風アリーナの方に立ててもいいし、それは市役所で許可すればいいだけですから、皆さんの文化祭にはちゃんと協力しますよ。

生徒　ありがとうございます。

市長　その文化祭はいつ？

生徒　今年は 10 月 24 日と 25 日の土日でやります。

市長　その事前にノボリとか作るだろうから、相談をしてください。

生徒　生徒から、市長さんに色々お伺いしたいこととか、三浦市についてとか質問が来て、まとめてみました。

生徒　全校でアンケートをとったので、せっかくなので代表的なものをピックアップしました。

市長　じゃあこれは、生徒からの質問ということね。
一つ目は、「三浦市の中で市長が誇りに思っていることは何ですか。」ですね。
三浦市は、自然豊かで魚も美味しいし、野菜も美味しい、首都圏から 60 キロという近い距離でこれだけの自然環境を持っている都市はなかなかありませんので、そういった三浦の良さをもっともっとＰＲして、三浦に住んでいただけるようなことをこれからも一生懸命やりたいと思っています。だから、三浦の誇りというのは、豊かな自然と、温かい人情です。三浦市っていうのは行政だから、行政っていうのは要するに皆さんから税金をもらって、市民のために何かをしようということで、税金を使ってやっているわけだから、色々きちんとした計画を作ってやらないといけないんですね。そうすると、三浦市のホームページを見てくれると、第 4 次総合計画というのがあるから、本みたいになっているけど、画面で見られるから、それをザーっと見ると、三浦市が何をやろうとしているかとかが書いてありますから。その中でも、今、三浦市のキャッチフレーズっていうのがこれなのね。「人・まち・自然の鼓動を感じる都市　三浦」。これが三浦の誇りです。ですから、豊かな自然と、温かい人情ですね。これが三浦の誇りです。

次が「三崎の花火がなくなったそうですが、ほかの花火大会が減ることもありうるのですか？」ですね。三崎の花火がなくなっちゃいました。三浦海岸の花火がありますけど、なくならないです。三崎の花火も地域で歴史がある花火なので、もう一度やりたいという動きがあれば、もちろん市も協力をしますし、もともと市は大きなお金を出してですね、それだけじゃなくて、地元の人たちが一生懸命募金をして、それで全体の運営費を出すんだけど、今景気が悪いからね。皆さん

毎年毎年の話なんで、寄付が集まらなくなってきちゃっているような状態があって、やめるという決断をされたんですが、市がやめましょうと言ったわけじゃなくて、周りの状況もよく考えて、花火の実行委員会の人たちが、決めたんですね。もう一度復活したいというのであれば、市も協力しますし、他の花火大会が減るなんていうことは、町の元気がなくなっちゃうから、そんなことはしません。三崎の花火はとりあえず今年はやめちゃいましたけど、来年復活するかどうかわかりませんが、三浦海岸の花火は倍くらいありますからね。電車の便も良いし、三浦海岸の花火をメインに、たくさんの人が来てくれるように頑張っていきたいと思います。

次は「アリーナの中にプールはできないんですか？」だね。アリーナの中に、プールはできないんです。屋内のプールが欲しいという市民の皆さんの要望というのはやっぱりたくさんあるんですね。今市営プールというのが三崎の二町谷、白石っていうんですけど、あるの知っていますか？みんな知らないだろうな。それは外のプールで、海の近くにあって、水はちょっと冷たいけど、50 メートルのプールで、良いプールなんだよ、あそこは。そういうプールがあるんだけど、屋内にプールを作ってほしいという話はやっぱりあるんですね。横須賀とか、他の市では屋内プールを作っているところがあるんだけど。冬でも使えるようにね、お湯になる温水プールが一般的なんですね。その温水プールっていうのは、水を沸かすじゃないですか。そうすると、それには熱がいるから、だいたいゴミを燃やす施設に隣接して造るんですよ。公共の屋内プールっていうのはだいたいそういう手法をとるんです。三浦市は施設でゴミを燃やしてないんですね。だから現状で、アリーナの中には当然プールはできませんけど、屋内のプールを作るという計画が今持ててないんですね。だからたとえばこれから色んな計画の中で、今は三崎の市営プールがあって、そこは屋外のプールなんだけど、屋根をつけたり、場所を移して屋内プールにして、冬でも使えるような温水プールを作ったりっていうのはやりたいと思っているんですけど、先立つものに相談できなくて踏みきれてないんですね。将来的には作った方が市民の皆さんも利用できるので、良いなと思っています。やろうと思っていますけど、すぐにできないという状況です。頂いた質問への答えは、「アリーナの中にはプールはできません」です。
次は「部活の活動の場を広げたい」？

生徒　福祉だけじゃなくて、福祉は福祉協議会で全部ボランティアとかもあると思うんですけど、福祉以外のボランティアもあると思うので、そういうのも市役所とかにインフォメーション・コーナーを作ってもらって、掲示とかあれば活動の場が広げられるのではないかと。

市長　それは良い意見をもらいました。市民の皆さんからも、皆さん 60 歳になると定年になるでしょう。そうするとやることなくて、でも体力はあるでしょ？市民の、例えばボランティア活動をしたいっていう人いっぱいいるんですよ。そういった人たちに、やりやすいように市が情報を提供しなければいけないっていうことね。市民の皆さんからもそういったお話をいただいて、今ちょうどそれについての新しい取り組みをね、今日来ている職員の課が今やってるから。ちょっと説明させます。

職員　ちょうどここにありますけど、このペットボトルのキャップってあるじゃないですか。これをたくさん集めて病気のワクチンに換えて、ワクチンが不足している外国の人たちに送ろうっていう、そういうことをしたいというボランティアさんから 4 月以降相談があったんです。それは一つの例なんですけど、それをやりましょうということになって、透明のゴミ箱ですね、これは誰でもできるボランティアですよという意味で、このキャップを入れてくださいということで、ゴミ箱を初声の市民センターと、南下浦の市民センターと、それから市役所の玄関のところに 7 月 31 日に置きました。そういうアイデアを一つひとつ積み重ねていけたらと思って、私の課でやっています。もちろんインターネット、ホームページ、そういうところでも情報を発信していこうと思っています。そのゴミ入れのところに柱を付けて、看板を付けて、そこに「こういうことやりたいです」という団体があったら伝言板みたいな機能を合わせてやっていこうと思っています。何かまたアイデアがあったら、教えて下さい。

市長　今、その準備をしています。だから例えば高校生のみんなが福祉以外の、福祉は社会福祉協議会っていう、引橋にあるそこが、ボランティア連絡協議会っていうのを作って、そこで福祉のボランティアがまとまっているんです。それ以外にも色んなボランティアがあるから、「こういうボランティアないかな」「こういうボランティアしたい」というようなニーズに対して何があるかっていうのを市役所である程度まとめて市内のボランティア活動を活発化していこうと思っています。市役所だけで何でもやろうというのは限界があるから、ボランティアの皆さんに色々協力をいただいて、色んなことをやっていこうということを今考えています。今までもボランティアは色んな活動をしてくれているんだけど、情報が集約されていないっていう傾向があるんですね。だから役所に行けば選べるし、自分たちも参加できるっていう環境を作ろうということで、今年から協働推進課に準備をしてもらうようにやってもらっています。それが部活の活動？ボランティアじゃないのかな。

生徒　箏曲部といって琴をやっている部活なんですけど、そういう人たちが色んな場所に行ってもっと発表をしたいと思っているみたいなんです。なので、そういう発表の機会があれば、学校に連絡を欲しいなと思います。

職員　院内コンサートやっているんで、ぜひ。もうすぐに打ち合わせに入りましょう。

市長　病院の中で土曜日にロビーで、入院している人とかお見えになる方にコンサートをやっているんですよ。結構有名な人もね。高見信行さん、トランペットの世界チャンピオン、そういう人が来てくれたりして。病院に音楽って馴染むじゃないですか。そういうのもやっているし、琴のサークルが人前で発表したいっていうんでしょ。そういうのは、例えば教育委員会で PTA の集まりがあったり、そういう会合とかいっぱいあるから、相談してもらえれば。でも相談するところが分からないって話だよな。それは…私のところに言ってきてください。そこにいるのが秘書課長だから、そこへ行けば全部上手くさばくから。
そうだね。市長のところに言ってくるのが一番早い。相談したいことがあれば市役所はそのためにあるんだから。相談してもらえればいいですから。
次の「三崎、三浦にもお店をつくってほしい。」というのはどういうこと？

生徒　無理だとは思うんですけど、率直な高校生の意見としては高校生が楽しめるようなところを、という思いでこういう意見が多かったです。

市長　要するに、高校生の行く場所が無いっていうことだ。簡単に言えば。

生徒　そうですね（笑）

市長　三崎の下町商店街って行ったことあるかな？シャッターが閉まっていて、商店街がどこも、三崎に限った話じゃないんだけど、商店街って大きなスーパー、イオンとかイトーヨーカドーとかにみんな取られちゃって、どこも元気が無いんですね。都心部でも、久里浜の商店街とか衣笠の商店街は駅の周辺にあるし、商店街独自で色んなことをやればまだ元気が取り戻せるんです。ところが郊外の商店街っていうのは非常に元気がなくて大変な状況なんです。ただ三崎の下町の商店街っていうのはマグロを食べにグルメの人たちがたくさん来てくれるので、まだ元気が取り戻せると思っているんです。前ほどの元気が取り戻せるかどうかは別として。特色のある商店を作っていこうということで、今みうら映画舎っていうのがギャラリー作ってるの知っていますか？今度商店街の中にそういうところを

作ったり、三浦の地場産品、いわゆる三浦ブランドっていうのを作っているんだけど、そういう店を作っていこうということです。市が空き店舗を借りて、そこで店をやりたいっていう人を募集して、いくらか補助金を出してやっていこうということで今準備しています。その商店街の活性化と下町、三崎に観光客の皆さんに来ていただく手段としてそういうお店を作っていきますし、若い人がね、みなさん三崎に食べに行ったりしてないと思うけど、マグロなんか日本料理ばっかりだよね。1回 1,500 円とか 2,000 円とか。高校生だとあまりお金出せないじゃない。だからたとえばパスタとか、イタリア料理とか、ファストフードみたいなのが必要だなという話はしています。そういうのをピックアップして商店街にお店を作ってもらったりということを、下町の活性化計画の中に織り込んでいこうと思います。例えば臨海高校の生徒さんが「こんなお店があるといいな」とか提案をしてくれたり、学校の研究授業で商店街の取り組みについて取り組んでもらうとありがたいなと思っています。高校生からの提案というのは良い話だと思うんです。自分たちの目で、三崎の商店街に行ってこういう状況なのかっていうのを見て、どうしたらいいんだっていうのを研究テーマにしてもらったりするとありがたいなと思います。

次、「これからの三浦をどういう風に考えていますか？」ですね。

三浦市、人口 4 万 8 千 7 百数十人。そういう小さな規模が実際だから、何でも自分でやろうっていうのはやっぱり無理なんですね。図書館ひとつ作るにしても、5 万人で一つの図書館作るのと横須賀みたいに 42 万人いて一つ作るのとでは、利用者の数も違いますし、効果も全然違うんですね。そうすると三浦は横須賀と合併するというのではなくて、近隣の逗子とか葉山とかと連携して一緒にできるものは一緒にやろうというような広域的な取り組みっていうのは徐々に進めていこうと考えています。今、ゴミ処理も横須賀と一緒にやりましょう、消防も今逗子も葉山も三浦も個々に組織を運営しているんですが、そういうのも広くみんなで取り組んだ方が効果があるだろうと、そういう取り組みもしています。これからは水道とか下水も協働でやったらいいだろうというようなことも研究をどんどんしていくような流れになっています。ただ三浦は三浦の良さがあるし、三浦に住んでいる人達も三浦に誇りを持ってくれているので、やたらに合併するとか、そういう議論にはならないと思いますけど、効率的な運営をしていくためにはそういった手段をどんどんやっていこうというのが私の考えです。

次は「観光客のゴミ分別」？

生徒　三浦市は観光という面が大きいと思うんですけど、観光客との付き合い方が重要だと思います。東京などから来た観光客が三浦市のゴミの出し方が分かってないで東京のルールでコンビニのゴミ箱に捨ててしまったりするので、観光客に三浦

市のゴミの出し方を知らせる方法や、対策などについてどういうお考えがありますか。

市長　観光客の皆さんに、「金使わないでゴミだけ置いていく」なんて悪口言う人もいるんですね。ゴミの問題というのは、コンビニもね、三浦海岸のコンビニとかね、ゴミにはすごいお金がかかっているんですね。勤めている人がゴミを分けたりやっていますよね。最初から分けて捨ててくれればどうってことないわけじゃないですか。そういう分別のルールというものを自治体によって違いがあるんで、なかなか一元化は難しいんですけど、きちんと広報は今でもしているんです。駅でお知らせを配ったりとか、そういったことは今でもやっているんですけど、例えば生徒さんがどこかに行ってゴミが出ちゃったらゴミ箱にちゃんと分けて捨てるっていうのは個人の判断じゃないですか。そういうものをきちんと皆さんが分かってもらえるような取り組みをしなければいけないというのは私も痛感しています。役所としてできることはきちんとやるつもりなんですけど、観光客の皆さんにルールやマナーを守ってもらうっていうのをもっともっとやらないと徹底はできないと思います。そういう時のためにね、例えばボランティアの皆さんがゴミを拾っているところなんかも、きちんと皆さんにお知らせしたり、今日三浦海岸の花火大会ですけど、明日の朝ね、早朝 5 時とか 6 時からゴミ拾いをやりますので、ボランティアの人たちに参加してくださいという広報をしたりというのを今年初めてやったんですよ。人が足りなくて。それで一番大変なのはやっぱり分別なんですね。拾ってくるのはみんな拾ってくるんだけど、それを分けるのが大変なんです。市としてそういうことを広報したいし、観光客の皆さんにもルールやマナーを守ってもらいたいというのは、色んな方法を使ってもっともっとできるようにしなくてはいけないですね。
皆さんも学校で、駅とかで取り組んでいるじゃないですか。生徒会もやっていますよね。例えば、夏休みだからなかなか難しいかもしれないけど、土曜日とか日曜日にね、朝駅から降りてくる人たちに、観光客だと判断したらマナーを守りましょうということで宣伝したりとかっていうことを一緒にやってもらうとありがたいですね。
次の「海の家」というのは？

生徒　私今ロックの学園でバイトをしているんですけど、近隣の海の家から「お客さんが取られる」という苦情が多かったり反対をされています。三浦市はロックの学園に協賛しているということなので近隣の海の家のかたに説明をするっていうことはしなかったんでしょうか？

市長　どこがそんなこと言ったの？ロックの学園の海の家をやるときに海水浴場組合、要するに海の家の皆さんと一緒にやっているんだよ。だから表面的には市に対して「いっしょにやりますよ」って言ってくれているんだけど、裏に回って「あんなもんしょうがないな」とか「客を取られちゃうよ」って言っている人たちというのは相手にしません。陰でコソコソ言う人にはいちいち相手にできないから。海水浴場組合の皆さんは、ロックの学園であれだけ規模の大きなイベントをやるんでお客さんが増えるから協力してくれるということで一緒に組合も―――

生徒　賛成はしているんですか？

市長　はい。地元の人たちも協力してくれているので、一緒にやっているつもりでいますから。陰口言う人は相手にしません。だけど天気が悪くてね、本当に辛いんですよ。7 月 20 日にオープンしたんだけど、普通だったら梅雨も明けてカンカン照りで暑くてしようかないという感じじゃないですか。ところが今年は今になってもこんな天気だからね。ものすごいショックなんですよ。私なんかロックの学園に海に来て下さいってお願いした方だから、今すごい辛いです。今日花火で雨が降らないように祈っているし、多くの人たちが来てくれて、三浦海岸の良さを知ってもらうっていうのは大事だなと思います。だから海の家の人たちがそう言っているっていうのはごく一部の人だから、「そういう人たちは相手にしません」って市長が言っていましたって言って下さい。「本当に地元も協力してくれて三浦海岸の活性化のために一生懸命やってくれているから、ぜひ協力してください」って市長が言っていましたって言っておいてください。

事務局　他に質問等ありませんでしょうか。それでは時間にもなりましたのでトーク＆トークを終了させていただきます。本日は皆様ありがとうございました。

※　公表については了承を得ております。